

令和3年度 立川市立第五小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	◎よく考え進んで学ぶ子 ○自分も友だちも大切にする子 ○正しく判断し行動できる子 ○体を鍛え最後までやりぬく子
---------	--

目指す児童の資質・能力	複数の教科や学年全体に共通する取組
○自ら学び自ら考える力を育成し、基礎・基本の 確実な定着 ○プログラミング的思考を身に付ける ○自他を尊重し心身ともに健康で豊かな人間性 の育成	・問題解決的な学習過程を重視した授業改善 ・一人1台のタブレットを最大限に活用した授業の構築 ・様々な教科でお互いの意見を認め合う活動を行ったり、体育の学習を通して、体の使い方や身体の変化について学んだりする

学力分析

国語

目的や意図に応じて、資料を使って話す力は身に付いており、全国の正答率が8割に対して、本校は正答率94%と高い数値を示している。しかし、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することには課題があり、全国平均10%程度下回っている。また、漢字と文法の項目については、全国平均を約10%程度下回っている。

～改善策～

漢字や文法などの知識・技能は、物語文や説明文の学習を行うときにも、文法の使い方を全体で確認する。文法漢字などは日々の学習で意識的に使うように、低学年のうちから繰り返し指導していく。

算数

全国平均と比べ、概ね変わらない。しかし、速さが一定であることをもとに、道のりと時間の関係について考えたり、基準量を1としたときに比較量を求めたりする項目については、全国平均より5%程度下回っている。基準量と比較量の関係を、文章問題の中から正しく捉えられていないことが考えられる。

また、複合図形の面積を求める問題では、全国平均より5%程度下回っている。これは図形の性質を正しく理解できていないということが考えられる。

～改善策～

本校では、割合の学習を研究授業として取り上げて、指導法を研究し、児童の躓きにどう対応するか研鑽を重ねている。また、「ジャンプアップ」という放課後に補充学習の時間を設けている、そこでも、割合の学習を取り上げて、基準量と比較量の関係を、文章問題の中から正しく捉えられるようにしていく。

図形の学習では、図形の性質について単元の始めに確認をしたり、図形の性質を活用した問題に取り組みせたりしていく。

※6年生が5月に行った「全国学力調査」の個別票については、12月に配布になります。

令和3年度 立川市立第五小学校 授業改善推進プラン

教科	目指す資質・能力	具体的な取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字等の表記や学習した語彙を自分の書いた文章の中で適切に使ったり日常生活に生かしたりする力を付ける。 ○題材の中心や事例・根拠を的確に聞き取る、読み取ることにより課題がある。そのために、相手に伝わるように構成を考えて話したり書いたりする力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙の学習において、その漢字のもつ意味や派生する語句に興味をもたせるとともに、その語句を使った短文を作るなどの中で反復練習したり声を出して読ませたりなどの指導の工夫を重ねる。 ・構造や使われている語句の役割に着目して正確に話を聞きとったり文章を読んだりする指導を重ねる。話したり書いたりして自分の考えを表出し、児童相互の交流を通してさらに考えを深めることを多くの機会を捉えて行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を身近な問題として捉えられる。 ○資料を読み取ったり、それらを関連付けたり、活用したりする力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四方位や地図で場所を確認することをくり返し指導する。 ・資料の見方とそこから分かることを考えさせる等、必要な情報を読み取る場面を多く設定する。 ・実生活と関わりのある事象や時事問題を、導入として活用する。 ・読み取ったことを文章や、図、表で表し、関連性を視覚化する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○問題文から場面の状況を捉え、その関係を図や式、言葉で表現する力を身に付ける。 ○正確な四則演算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物、半具体物、テープ図、数直線図などを意図的に指導の場面で用いて、意味理解を定着させていく。 ・補充学習の「ジャンプアップタイム」において、四則演算の技能の定着を図る時間を確保する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○根拠をもって予想をする力を身に付ける。 ○実験や観察をした結果を生かして考察したり表現したりする力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもって予想することに課題があるので、生活経験を想起させたり、事前の体験活動を充実させたりする。 ・大事な語句を例示するなどして考察するときの基本的な型を指導する。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○観察をするとき、対象物を細かく見て、特徴等に気付くことができる。 ○自分の気付きを共有し合い、学び合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べることの視点を明確にし、授業の中で観察するポイントを明らかにする。 ・気付いたことを記録したり、発表したりする機会を多くする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の感じたことや自分の思いを言葉で伝えることができる。 ○楽曲に応じた器楽の演奏技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に聴いたり表現したりする活動を増やしていく。 ・旋律や鍵盤などの音の場所を十分に覚えさせてから練習に入り、一人ひとりに適切な指導をする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が道具の扱いを十分に身に付けられるようにする。 ○児童が、自分の作品に自信がもてるようになり、作品をより良くしようとする工夫ができる。 ○計画的に作品づくりをする力を身に付ける。 ○作りたいもの、その材料や作り方を豊かに発想したり、学んだことを生かたりしながら、思い付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具に慣れさせるため、他の学習でも使用する場面を増やす。 ・鑑賞タイムを多く設定し、自分や友達の作品のよさや面白さを見つける機会を作る。 ・題材全体の取り組み時間を示し、計画的に取り組ませる。 ・クロムブックの活用や、参考資料の提示、友達や美術作品の鑑賞、友達同士のアドバイスを通して、作り方のヒントを見つけられるようにする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の生活を見直し、改善点を見つけ、主体的に改善しようとする力を身に付ける。 ○調理や裁縫における基本的な技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活時間や生活の仕方を見直す学習では、家庭と連携をとった授業展開を考え、児童自身の生活に沿った見直しができるよう保護者の方へ協力を呼び掛ける。 ・つまづきやすい箇所を図や動画などを使って可視化し提示することで、技能の差を補ったり、向上させたりする工夫を行う。 ・保護者ボランティアの支援や、グループ活動を通して学び合いを活発にする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○走る、跳ねる、転がる、飛び降りる、くぐる、よじ登るなど全身を上手に動かすことができる。 ○自己やチームの課題を見付け、その解決に向けて思考し、判断する力を身に付ける。 ○基本的な動きや技能を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーショントレーニングを取り入れ、様々な体の部位を動かす運動の場を設定し、多様な動きを経験させる。 ・技能を高める場面では、自分やチームの課題に気付けるように工夫した学習カードを取り入れる。 ・苦手意識のある児童が「できそう」と思えるようにクロムブックで自分の動きを撮影し、試す、確かめる、振り返る活動を行う。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで自分の思いや考えを英語で、伝え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・間違えを恐れず英語で表現していく姿勢を大切にし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などの設定をよりはっきりさせた言語活動の時間を設ける。また、どの児童にとっても意欲が高まる導入や単元のゴールを設定したり、異文化への興味関心が高まるような資料の提示を行ったりする。

教科	目指す資質・能力	具体的な取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○相手にわかりやすく内容を整理して伝えることができる。 ○興味・関心・意欲を継続して学習に取り組むことができる。 ○スピーチや感想文で、いろいろな気持ちを表す言葉を使いながら自分の気持ちを表現することができる。 ○促音、拗音を正しく書けるようになる。 ○相手のことを意識して話を聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「いつ」「どこで」「誰が」「何をした」などの項目の書かれているワークシートを使用する。 ○児童の実態に応じて、児童がふれたことのある物語や歌、詩などを教材として使用したり、クイズやしりとり、早口言葉などの言葉遊びを学習の導入として取り入れる。 ○時間を構造化し、短く区切って指導する。 ○気持ちを表す言葉を例示し、その中から選択させることで、語彙を習得させていく。 ○インタビュー形式で大人とやり取りをする中で、心情を表す言葉を伝え、自分の気持ちに気付かせていく。 ○単語に拍子をつけ、手拍子と合わせて発音するなど体を使って言葉を覚えられるようにする。 例) ス キ ッ プ (単語) パ パ ッ パ ン (手拍子) ○相手を意識しやすい位置に座席を動かしたり、視線を確認したりする。また、聞く時間を徐々に延ばしていき、聞いている状況を即時評価する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心・意欲を継続して学習に取り組むことができる。 ○繰り上がり、繰り下がりのある計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数え歌や手遊び歌を学習の導入に活用したり、具体物や半具体物を用意したりする。また、身近な事象と結びつけた問題を設定する。 ○授業を構造化し、短く区切る。 ○ブロックやおはじきなどの半具体物を繰り返し操作しながら、数の合成や分解が理解できるようにする。
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> ○身近自立ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○余裕をもった時間の設定をしたり、見守りながら支援のタイミングを見付けたりする。 ○課題を明確にするとともに、取り組む課題を厳選する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○合唱や合奏を楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽器、童歌、リズム打ちなどいろいろな活動を取り入れたり、児童同士の関わりを作ったりすることで意欲的に参加できるようにする。また、同じ教材を繰り返し扱い、安心して参加できるようにする。 ○イヤーマフ(耳当て)を着用させ、音の刺激を小さくする。 ○授業中のみならず、学校生活のいろいろな場面を活用する。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で考えながら作品を作ることができる。 ○発達年齢の幅が広いと、課題によって児童の実態に合わないものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚的な支援を用いることで、言葉かけを最小限にし、児童が自ら考え、活動する時間を確保する。 ○児童自身の力で取り組める活動をもとに、作品作りの工程を設定する。 ○発達年齢に応じた課題に取り組めるよう、学年ごとに分けて指導をする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○運動に合った技能を身に付けることができる。 ○自分の体を自分でコントロールできるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スモールステップでの指導・支援を行うため、発達段階に応じたグループ分けをする。 ○楽しみながら運動経験を積んでいけるように、遊びやゲーム形式の活動も積極的に取り入れる。 ○スクーターボードや人口芝生歩きなどの感覚統合運動(あそび)を取り入れる。